愛知医科大学 学報

八ヶ岳高原から見た富士山
（写真提供　解剖学講座　中野隆教授）

＝ 第164号 ＝

2021. 10月

愛知県長久手市岩作雁又１番地１
〒480 -1195

学校法人　愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www. aichi-med-u. ac. jp

■ 主 な 目 次 ■

令和４年度予算編成方針……………………………2
愛知医科大学創立50周年に向けて…………………3
新型コロナウイルスワクチン接種への協力……4
令和３年度オープンキャンパスWeb開催　…　12
2021年度白衣式挙行………………………………　15
病院機能評価受審における訪問審査の実施…　22
教育・研究最前線…………………………………　38
Smile ～スマイル～ ……………………………　40

令和４年度予算編成方針

Ⅰ　基本方針

令和２年の始まりとともに世界中で感染拡大し猛威を振るう新型コロナウイルス感染症ですが，日本の状況は令和３年10月に緊急事態宣言の解除を迎えるに至っております。社会生活のあらゆる場面で感染への対応が求められ続けてきましたが，今後は新型コロナワクチンの広範な接種，更には治療薬の開発が期待されているところです。しかしながら，その時期を明確に見通すことは非常に難しく，中長期な影響についてもいまだ不透明な状況です。

このようなコロナ禍の中で，新病院開院（平成26年５月）から７年目を迎えた令和２年度の医療収入決算額は，令和元年度の374億円強を僅かに下回る366億円強（対前年比2.1％減）を計上し，事業活動収支差は13.9億円強のプラスとすることができました。新型コロナウイルス感染の波が繰り返し訪れる令和３年度ですが，病院の指標はコロナ前の水準に戻りつつあります。決して油断することなく，新型コロナウイルス感染症と戦いながら,引き続き教育・研究・診療の３本の柱を続けていかなければなりません。

令和元年度に策定した「愛知医科大学中期計画」（令和元年度～令和５年度）が４年目を迎えます。この計画では，多くの課題が示され，中には困難な取り組みもありますが，計画の後半に向けて結果を出すべく具体的な行動が求められる段階となりました。この取り組みの一環として目に見える形で実現したプロジェクトの一つが，経営戦略推進本部主導のもと進められたメディカルセンターの設置です。令和３年４月の分院開設は，本学の建学の精神に則るものであり，メディカルセンターの機能が地域の拠点となり，また教育病院として活用され，財政基盤の拡充を通じて本学の発展に資すること，そしてそのためには一日でも早くメディカルセンターを当初計画の軌道に乗せることが求められます。

安全・安心のためにも新型コロナウイルス感染症による難局から早期に脱し，愛知医科大学が更に機能的で魅力ある大学として発展し続けるためには，職員一人ひとりがニーズを的確に把握することはもとより，社会環境の変化に即応した効率的・効果的な財政運営に一層努める必要があります。従って，施策全般にわたり緊急度・重要度などの観点から再検証し取捨選択を行うなど，将来にわたり健全で強固な財政基盤を堅持していかなければなりません。

このような状況を踏まえ令和４年度予算編成は，全体収入の８割を占める医療収入について診療報酬改定が予定されており収入見通しが難しいこと，また，引き続き新型コロナウイルス対策も行っていく必要があることから，事業の優先順位付けを行い，実施時期の見直しや事業の廃止，縮小など事務事業の抜本的な見直しを行うことで，活力を持続できる財政運営を確保することとします。

Ⅱ　重点事業

令和４年度予算編成は，資金収支予算ベースでは経済変動の影響を柔軟に受け止めるとともに，いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の積み上げ目標金額を10億円とし，事業活動収支予算ベースでは，経常収支の黒字予算確保を図ることとします。

上記の考えを具体の予算に反映するため，各編成単位においては中長期的な観点に立った次の「重点事業の目的」に合致した計画立案を求めることとし，定量的な成果が見込める事業を優先します。

＜重点事業の目的＞

1　教育機関としての成果が期待できる事業
2　研究支援体制の強化に係る事業
3　病院の機能活性化推進事業
4　医療収入・薬品材料費・診療材料費
5　メディカルクリニックに関する事業
6　私立大学等改革総合支援事業対策
7　創立50周年記念事業
8　イノベーションプロジェクト事業
9　大学・病院の機能維持に必要な大規模修繕工事

役員・評議員の異動

【理事】

辞　任　浅井　富成（令和３年９月30日付）

就　任　福澤　嘉孝（任期：令和３年10月１日～令和４年１月27日）

【評議員】

辞　任　浅井　富成，小出　龍郎，小出　詠子（令和３年９月30日付）

就　任　福澤　嘉孝，安川　龍也，早稲田勝久（任期：令和３年10月１日～令和４年１月27日）

愛知医科大学創立50周年に向けて

昭和47（1972）年４月１日に開設した愛知医科大学は，令和４（2022）年度をもって創立50周年を迎えます。このことに伴い，「創立50周年記念事業実行委員会」を設置し，祖父江元 理事長･学長を始め，学内役職者等に学外委員を加えた総勢20名の委員，並びに関係事務部門が連携し，四つの大きな事業を柱として，各種事業の実施を検討しています。

本学の開学記念日である「11月３日」には，記念式典を挙行予定であり，新型コロナウイルス感染症が収束し，関係の皆さま方を交えて式典が開催できることを切に願っています。

第１回入学式で告示を述べる橋本初代学長
（大学広報誌「青藍」より）

「あいちワクチンステーション栄」における新型コロナウイルスワクチン接種への協力

愛知医科大学病院は，令和３年９月11日（土）から11月５日（金）にかけて愛知県が開設する新型コロナワクチン大規模接種会場「あいちワクチンステーション栄」において接種医療機関として協力しています。

「あいちワクチンステーション栄」は，名古屋市の中心地にある愛知芸術文化センター内に開設され，接種時間帯については，正午から午後８時まで接種が可能な体制を取ることで対象者となる愛知県に在住，在勤，在学の一般市民の方が来場しやすい環境を整えています。また，若い世代のワクチン接種を促進するため，LINEアプリを活用した予約システムを導入する画期的な大規模接種会場となります。

開設以降，非常に多くの予約と来場があり，順調にワクチン接種が進んでいます。本院は，引き続き「あいちワクチンステーション栄」において，一般市民の皆さまが速やかに新型コロナウイルスワクチンを接種できるよう努めて参ります。

「あいちワクチンステーション栄」接種会場の様子

愛知医科大学公開講座（尾張旭市連携事業）

令和３年12月15日(水)から令和４年１月31日(月)までの間，オンラインで尾張旭市との連携公開講座が開催されます。

本公開講座は，昨年初めてオンラインにて開催され，自由な時間に視聴できることで大変好評を得られたため，今年度においてもオンラインで開催されることになりました。

今年度は，こころのケアセンターの古井由美子技師長による「コロナ時代を生き抜くためのこつ～人とのつながりを持って，自分らしく生きよう！～」と題した講演が行われます。尾張旭市ホームページからどなたでもご覧いただけますので，是非ご視聴ください。(申込不要・無料)

大学・病院へのご寄付に感謝申し上げます

大学病院を有する本学へのご協力として，本学近隣企業様及び関連企業様等から食料品等のご寄付について多数のお申し出を賜りました。

ご寄付を頂いた皆さまからのご厚意に深く感謝申し上げるとともに，前号に引き続き，掲載の許諾を頂いた企業様等の一部をご紹介させていただきます。（受領期間：令和３年８月１日～10月31日）

贈呈の模様（※１）

受領日	寄付者（企業名等）	物　　品	数　量
８月２日，19日，９月８日，９日，15日，22日，10月４日，６日，11日，13日，14日，18日，25日	BENKEI	食品（菓子パン）	650個
９月３日	中日本航空株式会社	マスク	1,000枚
９月14日	カルビー株式会社　中部支店※１	食品（グラノーラ）	2,150個
９月16日	焼肉華火　錦店	食品（焼肉弁当）	25個

令和４年度採用事務職員内定式挙行

令和３年10月１日（金）午後３時から大学本館４階第１会議室において，令和４年度採用事務職員内定式が挙行されました。

式では，内定者11名に内定証書が授与された後，島田孝一法人本部長から「コロナの状況の中で新しい時代として，大学としての装備というものは一通り揃いました。今後については，職員においても古い考え方のままではなく，新しい考え方を持っていく必要があります。ここにいる皆さんには，これからの時代に対応していく可能性を見込んでおります。事務職員として，幅広く経験を積んでいただき，様々な角度から活躍していただきたいと思っておりますので，来年の４月に，万全の状態の皆さんに再会できることを待っています。」とあいさつがあり，午後３時30分頃に式は終了しました。

内定者との記念撮影

令和３年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では，「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

事務職員向け学内研修実施

令和３年９月から，事務職員が各部署の業務内容と最新情報を理解することで知識向上と業務の効率化を図ることを目的として，事務職員向け学内研修が実施されました。開催にあたり，新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から，各回定員を設けての実施となりました。

同じ事務職員でも，他部署がどのような仕事をしているのかについて普段なかなか知る機会がありませんが，この学内研修を通して，各部署の業務内容，他部署との違い，業務において気を付けるべきポイントなどについて，研修講師から説明があり，基本的知識や最新情報を事務職員同士で共有することができました。

受講者からは，「他部署の業務について知ることができて，有意義な時間でした。」，「病院にいると，基本的なことであっても大学側のことは知らないものなのだと実感した。」，「先輩方からしか聞くことのできないような沿革などのお話は，とても貴重な経験であったと感じました。」といった感想がありました。今後も様々な部署に講師を依頼し，本研修を事務職員の知識向上と情報共有の機会とする予定です。

＜事務職員向け学内研修＞

開催日：９月15日（水）
テーマ：総務広報課の業務紹介
講　師：舘　陽平（総務部総務広報課・課長）

開催日：10月20日（水）
テーマ：研究支援課の業務紹介
講　師：勝野いつか（総務部研究支援課・主査）

目標管理評価者研修実施

令和３年10月12日（火）C棟２階C201講義室において，午前・午後の二部制で目標管理評価者研修が開催されました。午前の部は評価初心者や基礎を再度確認したい方向けに，午後の部は評価経験者や評価に悩みがある方向けの内容として開催され，48名の管理職が参加しました。【写真】

今回の研修では，人事評価の意義は「組織目標実現のために人的資源の価値を上げること」という前提を確認した上で，評価の手順や面談のフローについて学習しました。また，今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し，ソーシャルディスタンスを保ちつつ，出席者間で評価結果の共有を行うグループワークを実践し，新しい評価の視点を学びました。講師からは,評価時に陥りやすい考え方や,面談での効果的な声がけの仕方，フィードバックの重要性について具体例が提示され，被評価者から納得感を得るための評価方法を学びました。

受講者アンケートでは，「学んだ面談方法を日頃から意識して行っていきたい。」，「組織目標と現状のギャップを明確にして，課員各々のスキルアップを図り，自部署の目標実現を図っていく。」などの感想がありました。

新規採用事務職員半年フォロー研修実施

新規採用事務職員を対象に，配属後半年を一つの区切りとした半年フォロー研修が令和３年10月26日（火）に大学本館７階702会議室において実施されました。【写真】

本研修では，４月に入職した事務職員だけではなく，７月・９月に入職した事務職員も受講し，ソーシャルディスタンスを保ちつつ，令和３年度採用の事務職員同士の仲を深め，部署を越えた人間関係づくりを行うとともに，２年目の職員に必要な能力や考え方について学ぶ機会となりました。

講義では，先輩職員が乗り越えてきた「壁」の具体的な対処方法を学ぶ研修や，２年目の職員に求められることについて考えるグループワークが行われ，これからより良く働く上で意識するべき考え方の一つを学びました。

最後に，これからの半年間に向けて目標設定を行い，半年後の自分への手紙を書くことで，これからどんな自分になりたいか具体的なイメージを膨らませました。

受講者からは，「円滑に仕事を進めるために必要な最低限のマナーや常識，業務管理などについて改めて確認することができた。」，「これからの社会人生活に活かし，良い先輩になれるようにしていきたい。」といった感想がありました。

本学の将来を担う人材を育成するために，今後も積極的に様々な研修に取り組んでいく予定です。

図書館利用講習会（オンラインセミナー）開催

総合学術情報センター（図書館部門）では，提供している電子リソース等の利用方法等について対面による個別説明に加え，オンラインによるセミナーも実施しています。

令和３年10月19日（火），26日（火）に電子教科書UpToDate及び文献管理ソフト新RefWorksのオンラインセミナーが実施され，全日程で教職員22名の参加がありました。

UpToDate入門オンラインセミナーでは，提供業者であるウォルターズ・クルワーのトレーナーが講師となり，UpToDateの活用に必須となる基本機能について，診療ガイドラインへのアクセス方法，薬物相互作用の収録内容について，モバイル環境における活用と音声検索（スマホ・タブレット）等についての説明があり，質疑応答が行われました。

文献管理ソフト新RefWorksオンラインセミナーでは，提供業者である株式会社サンメディアのトレーナーが講師となり，初級編では，アカウント作成，データベースからのエクスポート，参考文献リストの作成等，上級編では，レコードの編集，書誌補完機能の活用，プロジェクトの活用等の説明があり，質疑応答が行われました。

今後も，オンラインによる図書館利用講習会を開催していく予定です。

教授就任インタビュー

麻酔科学講座・教授

藤田（ふじ た）　義人（よしひと）

― 教授就任に当たっての抱負を聞かせてください。―

麻酔科・周術期集中治療部は，手術室運営，手術麻酔管理，周術期患者管理，術後集中治療管理，周術期集中治療室運営，院内急変対応など手術麻酔を中心とした幅広い範囲をカバーしています。大学病院麻酔科としての使命，すなわち高度医療を行う各科手術を適切で安全に行う麻酔技術とその後の安定した術後管理。院内での重症患者を速やかに収容して治療する集中治療。病院としての正に心臓部分を担っています。その重責に応えるよう努力していきたいと思います。そのために個々の麻酔科医のレベルの向上だけでなく，愛知医科大学が全国的にみて特に進んでいるコメディカルとの協力，診療看護師の教育，積極的なチーム医療を更に円滑に進めていきたいと考えています。

麻酔は特に専門とする臓器を持ちません。呼吸，循環，意識を中心とした全身管理として全身をバランスよく俯瞰的に眺めることのできる幅の広い学問です。そのような魅力を学生や後進の先生に余すところなく伝えることができればと考えています。その広い範囲をカバーすることから，本学の他の臨床系講座，基礎系講座，他施設など積極的に研究なども進めていけると幸いです。

― 現在の研究分野に進まれたきっかけを教えてください。―

基礎研究の研究分野での脳低温療法の研究も思い入れがありますが，ここでは現在臨床分野で最も力を入れているRRSについてお話しします。院内急変対応システムRapid Response Systemは院内での患者さんの状態の悪化から心停止に至るのを未然に防ごうとするシステムです。この分野に力を入れる動機は，院内でも一旦心肺停止に陥れば社会復帰は1割に満たないという事実です。院外で心停止になった場合に社会復帰が５％弱，医療スタッフが近くにいる院内ではかなり社会復帰できるだろうと想像しますが，実際にはそうではありません。それを未然に防ぐシステム作りです。前任の名古屋市立大学でもこのシステムを立ち上げましたが，愛知医科大学では以前よりも数段高いレベルのシステム構築をコメディカルのスタッフとの協力で行っています。

― 学生へのメッセージをお願いします。―

麻酔というと歯科での治療のイメージでしょうか。実は，麻酔は「全身管理の学問」なのです。手術は，言わば意図された外傷です。癌を取り除くためにメスを入れることが許される。しかし，生体には侵襲が加わっています。それをいかに制御するのか。痛みを除き，意識や体動を制御する。その全身管理が麻酔です。その技術を，コロナで有名になったECMOの集中治療医学，救急医学，ペインクリニックに活かしていきます。そんなダイナミックな麻酔の魅力を感じてください。

オフショット

GICUでのスタッフの皆さんと仕事の合間のワンショット。
一番右が私です。

臨床腫瘍センター腫瘍内科部門・教授

久保（くぼ）　昭仁（あきひと）

― 教授就任に当たっての抱負を聞かせてください。―

令和３年10月１日付けで臨床腫瘍センター腫瘍内科部門の教授を拝命致しました。皆さま，何卒よろしくお願い申し上げます。私は，平成21年に大阪府堺市の国立病院機構近畿中央胸部疾患センター（現近畿中央呼吸器センター）から本学内科学講座（呼吸器・アレルギー内科），当時山口悦郎教授の下へ赴任しました。専門は呼吸器内科ですが，呼吸器以外の腫瘍を含めて腫瘍学全般に興味があり，腫瘍内科の職をいただけたことを大変光栄に思っています。

昨今のがん医療は，分子生物学・免疫学の発展によって大きく進歩してきています。特に，がんの分子診断に基づいた分子標的治療，免疫療法の飛躍的な発展に伴って，予後不良疾患の代表であった肺がんにおいても治療成績の顕著な改善が示されてきています。更に，これまで研究レベルであった，がんゲノム医療が実際の診療に導入され，治療法の無かった様々な進行がんの患者さんに新しい医療を届けることが可能になりつつあります。このようなゲノム医療は，これまでの固形がんだけでなく血液のがんや，がん以外の難病にも適応が広がって行くことが期待されています。ゲノム医療，腫瘍内科診療を通じて，本学のがん医療の進歩に貢献していきたいと考えています。

― 現在の研究分野に進まれたきっかけを教えてください。―

鳥取大学を卒業後に入局したのが，故郷である香川県の香川大学医学部第一内科（現血液膠原病呼吸器内科）でした。「内科全般の研修が一番しっかりしていそうだから。」が入局理由だったのですが，そこで血液・腫瘍内科学をゼロから学ぶことになりました。その後，肺がんの臨床試験に興味を持って，当時国内でも多くの臨床試験を行っていた，大阪府立羽曳野病院へ内地留学，分子生物学研究のための米国立衛生研究所への留学などを経て現在に至っています。それぞれの場所で優れた恩師に出会うことができて，ともに切磋琢磨できる仲間に恵まれたおかげで，これまでやってくることができたと思います。これからも様々な人との出会いを大切にして，がんという難治性疾患の医療に取り組んでいきたいと思います。

― 学生へのメッセージをお願いします。―

医学の進歩に伴って，医学生時代に学ぶべきことも年々高度になってきています。勉学に励んで，これらを修得することは大変ですが，同時に人との出会いを大切にして，貴重な学生時代を楽しんでください。趣味や部活など，好きで興味の持てることに一生懸命取り組んでほしいです。それは，きっと将来の仕事への原動力にも繋がると思っています。頑張ってください。

オフショット

冬の三峰（奈良県にて久保昭仁撮影）

臨床腫瘍センター腫瘍外科部門・教授

矢野(やの)　智紀(もとき)

― 教授就任に当たっての抱負を聞かせてください。―

この度，臨床腫瘍センター腫瘍外科部門の教授を拝命致しました，矢野智紀と申します。私は，30年以上呼吸器外科を中心に医療に従事し，今まで二千人以上の肺癌や胸腺腫などの悪性腫瘍患者の手術を担当してきました。また，米国ワシントン大学心臓胸部外科留学時に移植肺への遺伝子導入に関する研究に従事し，帰国後は肺癌や胸腺腫に関する遺伝子異常や血管新生抑制因子の抗腫瘍効果に関する研究を行ってきました。

現在肺癌に対する新規抗癌剤が数多く開発され，肺癌治療は大きく進歩しましたが，それでも残念ながら不幸な転帰をたどる患者が少なくありません。新規抗癌剤の導入後の外科療法は今後発展していく治療法です。また，肺癌以外の希少癌の治療も重要です。一つひとつエビデンスを重ね，それらの治療法を確立していきたいと考えます。

他診療科との良好な連携の下，臨床腫瘍センター腫瘍外科部門が臓器や領域の横断的外科療法を実践できる治療センターとして機能し，本院の特色の一つとして全国から患者を集めていきたいと考えます。何卒よろしくお願い申し上げます。

― 現在の研究分野に進まれたきっかけを教えてください。―

学生時代は漠然と外科志望でしたが，当時，名古屋市立大学第二外科を主宰されておられた故正岡昭先生の講義を拝聴し感銘を受けました。正岡先生は最も有名な呼吸器外科医のお一人で，特に，機能回復を目的とした呼吸器外科手術に精通されておられました。ご自身の手術で難病患者を治療する喜びを語られる正岡先生に憧れました。胸腺腫治療は正岡先生のライフワークであり，この腫瘍が重症筋無力症等の自己免疫疾患を合併すること，胸腺摘除で重症筋無力症が改善することを学び，大いに興味を抱きました。

― 学生へのメッセージをお願いします。―

自分は幸運にも良き恩師や同僚に恵まれ，海外留学も経験できました。そのような幸運が全ての人にもたらされるわけではないと思いますが，以前よりは国内外の留学や様々な勉強の機会は増えてきていて，多くの情報が獲得しやすい環境になってきています。医学生の皆さまには是非，色々な経験を積んでいただき，医学という学問の詰め込みだけではなく，その面白さを味わっていただき，他分野とも交流し柔軟な発想で新たな診断や治療法を創造して欲しいと考えます。

オフショット

ときどき高校の同級生とゴルフを楽しんでいます

令和３年度オープンキャンパスWeb開催

令和３年度のオープンキャンパスは，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため,昨年度に引き続き，オンラインを活用した「Webオープンキャンパス」として８月14日（土），15日（日）に開催され，多くの方々にご参加いただきました。

当日はZoomを使った様々な企画が催され，医学部では在学生や卒業生による「トークライブ」や外部講師による「入試過去問解説講座」のライブ配信，看護学部では教員と在学生による「個別相談会」が実施されました。

◆　医学部

○　トークライブ

・　愛知医大への合格の秘訣教えます！
（入試合格　体験談）

・　グローバル化する愛知医大生
－海外９大学との国際交流－（留学体験談）

・　愛知医大生の研究力
－学生が解剖学の教科書を出版！－

○　愛知医科大学医学部入試過去問解説講座

◆　看護学部

○　教員との個別相談会

○　在学生との個別相談会

医学部トークライブの様子

看護学部個別相談会の様子

また，昨年度に開設された「Webオープンキャンパス特設サイト」が新たにリニューアルされ，愛知医科大学の魅力を今まで以上にお伝えできるサイトへ生まれ変わりました。中でも，大学内をドローンが駆け巡る大迫力の「スペシャルムービー」は，多くの方々からご好評をいただきました。

Webオープンキャンパス特設サイト

［参加者の皆さんからの感想］

・現役生や医師の方からお話を聞くことができてとても参考になりました。また，ドクターヘリの紹介を見て興味を持つことができました。

・特設サイトでは，簡易マップ上で何処に何があるのかを確認し，気になった場所を動画で詳しく見ることができたので，とても分かりやすく，楽しく見ることができました。

・学生が教科書を出版しているのを見て感動しました。また，海外への留学がとても充実していることを知り，私も語学を勉強し，是非参加したいと思いました。

・対面形式と変わらず，実際に教員の方に質問することができて非常に良かったです。

・相談会では丁寧に細かく話していただき，雰囲気が分かりやすかったです。医療に関わる仕事に就きたいと改めて感じることができました。

・Zoom形式ではありましたが，顔を見て話すことができて，会話の受け答えもスムーズだったので参加して良かったです。

シンガポール国立大学ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科との学術交流と協力に関する覚書締結

令和３年８月２日（月）にシンガポール国立大学ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科との学術交流と協力に関する覚書が締結されました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から，調印式は遠隔（Zoom）にて開催され，シンガポール国立大学からは，Emily Ang医学部看護学科長，Zhou Wentao准教授を始め４名が出席されました。また，本学からは，坂本真理子看護学部長，学術国際交流委員会の山本弘江委員長，阿部恵子委員，近藤真治委員の４名が出席しました。

式典は，阿部委員の司会にて進行され，出席者の紹介後，坂本看護学部長のあいさつ，Emily Ang医学部看護学科長からのあいさつがあり，覚書内容の確認及び承認後には，両機関の長によって署名がなされました。

今後は，シンガポールへの渡航再開後，看護学部に先立ち，大学院看護学研究科の短期留学プログラムを開始することで，活発な学術・文化交流を進めていくことを予定しています。

遠隔（Zoomによる）調印式の様子

本学出席者（右から，坂本看護学部長，山本委員長，阿部委員，近藤委員）

令和2年度看護学部・看護学研究科 ベストティーチャー賞表彰

看護学部及び看護学研究科では，例年，ベストティーチャー賞を授与しています。同賞は，平成29年度から導入された制度で，学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により，教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

今後も授業改善に向けた取り組みの一環として，評価の高い教員を顕彰し，学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャーを受賞した教員は，次のとおりです。

坂本真理子看護学部長と受賞の皆さん

看護学部

・赤荻　純子 講師（母子看護学領域）
・二村　純子 助教（地域看護学領域）

看護学研究科

・佐々木　裕子 准教授（在宅看護学領域）
・長崎　由紀子 准教授（感染看護学領域）

医学部国際交流プログラム実施

本学医学部では，新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により，今年度の学術国際交流協定大学等との学生の交換留学が前年に引き続き，やむを得ず中止となりました。このことを受け，学生に継続してグローバルな視野を養う場を提供することを目的として，代替となるプログラムが実施されることとなりました。学生の積極的なプログラムの利用を期待致します。詳細については，次のとおりです。

コース名	南イリノイ大学PBLコース選考試験体験コース	オンライン医療英語実習コース
目　　的	実際の南イリノイ大学PBLコースの選考試験を体験させると同時に試験対策の機会を提供し，将来の南イリノイ大学留学への動機付けとすること。	OSCE発祥の地である英国にあるレスター大学との共同プログラムとなり，OSCEの中でも医療面接に焦点を当て，英語による医療面接のノウハウを学び，また，英国の医療を理解することを通じて，視野を広げる機会とすること。
対象学年	１～３学年次生	１～５学年次生
内　　容	・南イリノイ大学PBLコースの選考試験（英語によるチュートリアル）を模擬的に実施する。 ・効率的な試験対策法を指導する。	・医療面接の基本に関する参加型講義 ・医療面接の予行練習 ・模擬患者との医療面接（テスト） ・英国と日本との医療体制の比較に関する講義
講　　師	本学教員	レスター大学教員 運営(委託会社)：ファーストトライ株式会社
選　　考	なし（英語力不問，学力不問）	
実施形式	対面	オンライン
定　　員	２～８名	４～16名
参 加 費	不要	15,000円

令和４年度大学院医学研究科入学試験
第75回論文博士外国語試験実施

令和３年10月１日（金），本学本館７階711特別講義室において，大学院医学研究科入学試験第１次募集及び第75回論文博士外国語試験が行われました。合格者数は，大学院医学研究科入学試験が11名，論文博士外国語試験が７名となりました。また，入学定員に満たないことから，第２次募集を予定しています。

これまで社会人入学制度や学納金減免制度の拡充などを行い，大学院教育を受けやすい環境を整えてきましたので，研究意欲の高い方が多数応募されることを期待しています。

なお，大学院医学研究科入学試験第２次募集及び第76回論文博士外国語試験は，令和４年２月４日（金）に実施予定です。

令和４年度大学院看護学研究科入学試験実施

令和３年９月１日（水）に令和４年度大学院看護学研究科入学試験が行われました。合格者数は，修士論文コースが５名，高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コースが２名，高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースが６名となり，入学定員に満たないことから第２次募集を予定しています。

本研究科では，これまで医療等の現場で活躍されている方々が，退職したり休職したりすることなく学べるよう，平日の夜間や土曜日などにも講義，研究指導等を行っています。更に，勤務や育児などの事情により標準修業年限での履修が困難な学生を対象とした「長期履修制度」を導入し，社会人がより学びやすい教育環境を整えています。（高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースを除く。）

大学院看護学研究科入学試験（第２次）は，令和４年２月３日（木）に実施予定です。

2021年度白衣式挙行

令和３年10月９日（土）午後２時から大学本館たちばなホールにおいて，2021年度医学部白衣式が，新型コロナウイルス感染症感染予防策を講じた上で挙行されました。また，今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止として，ご参加いただけなかった保護者等の方々に対し，Webシステム（Zoom）を利用したオンラインでの配信を行い，当日の様子をライブでお伝えしました。

学生代表の梅崎さんによる宣誓

白衣式では，共用試験（CBT，Pre-CC OSCE）に合格し，臨床実習への参加が認められた医学部４学年次生に対して「Student Doctor」の称号が授与されました。学生は新しい実習衣を身に付け白衣式に臨みました。

初めに，若槻明彦医学部長から，臨床実習に臨む者としての心構えについて話があり，代表者へStudent Doctor証書が授与されました。引き続き，伊藤恭彦教務部長を始め，７名の臨床医学系教授から学生一人ひとりにStudent Doctorのワッペンが授与されました。

次いで，祖父江元 学長，道勇学病院長，井上里恵看護部長からの祝辞があり，愛知医科大学同窓会愛橘会の福澤嘉孝理事長，昨年度に本学を卒業し研修医１年目の伊藤彩子医師からも激励の言葉がありました。

最後に，４学年次生代表の梅崎傑さんが学生宣誓文を読み上げました。この宣誓文は，これから臨床実習に臨むに当たっての心構えなどを学生全員で話し合って作成したものであり，自分たちで考え，言葉にすることで，自らの臨床実習への意識付けや行動規範とするものです。学生それぞれが決意を新たに次のステップを踏み出しました。

令和３年度臨床実習前OSCE及び臨床実習後OSCE実施

今年度の客観的臨床能力試験（OSCE：Objective Structured Clinical Examination）は，昨年度に引き続きコロナ禍での実施となり，COVID-19感染対策を行いながら実施されました。

令和３年７月17日（土）には，６学年次生を対象に臨床実習後OSCE（Post-CC OSCE）が実施されました。昨年は，本学独自課題のみの実施でしたが，今年度は機構課題３課題と独自課題２課題を実施しました。実施に当たっては，受験者と評価者，模擬患者との距離の確保，室内の定期的な換気，消毒の徹底が行われました。今年度も臨床実習が一部制限され，必ずしも十分に実習はできていませんが，学生は医療面接・身体診察と今までの実習の成果を発揮するように真摯に取り組んでいました。

また，令和３年９月11日（土）には，４学年次生を対象に臨床実習前OSCE（Pre-CC OSCE）が十分な感染対策のもとで実施され，身体診察は主にシミュレーターが活用されました。臨床実習前OSCEは，令和５年度に公的化試験となることが決定しており，コロナ禍ではありましたが今後の公的化を見据え，今まで実施していなかった課題を独自課題として実施するなど，新たな取り組みを行いました。

試験に臨む学生たち

来年度は公的化試験の前年度として全国規模でトライアルが実施されます。実施課題数も増え，２日間にわたり実施することが予想されるため，教職員の一層のご協力が必要となりますので，よろしくお願い致します。

令和３年度秋の交通安全講習会開催

令和３年10月26日（火）午後５時45分から，医学部・看護学部の学生を対象に，秋の交通安全講習会が愛知警察署交通課交通総務係の大坪警部補を講師としてオンラインで開催され，両学部合わせて約140名の参加がありました。

大坪警部補からは，愛知県内の交通事故の状況が伝えられ，日没が早くなってきたこの時期は，「早めのライト点灯」,「ハイビーム・ロービームの活用」,「明るい服装や反射材の着用」を心掛けるよう説明がありました。

また，令和２年６月30日施行の道路交通法改正により創設された「あおり運転」等を取り締まる妨害運転罪について詳しく解説があり，「あおり運転」をされたときの対処方法や，自分が「あおり運転」と疑われないためにも，車間距離を開けて無用なトラブルを避けてほしいと説明がありました。

講習会終了後には，交通安全に対するWebテストを全25問実施し,「ヘッドライトは,ハイビーム（上向き）を基本に走行するのが良い。」,「飲酒運転は，車両同乗者への罰則がある。」等の交通規則の確認が行われました。

大坪警部補によるオンライン講習会の様子

今後も学生一人ひとりが安全運転に努めてくれるように，引き続き啓発活動を続けて参ります。

令和３年度愛知医科大学医大祭の中止

令和３年10月30日（土），31日（日）に開催を予定しておりました令和３年度愛知医科大学医大祭については，新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮し，企画，開催方法等について協議を重ねて参りました。その結果，今年度の開催は困難であると判断し，苦渋の決断ではありますが昨年度に引き続き，中止することと致しました。

医大祭は，例年多くの方々にご来場いただいており，一般の皆さまにも多数ご参加いただく企画など，学生が地域の皆さまと交流する大変貴重な機会です。楽しみにされていた方もいらっしゃると思いますが，ご理解いただき，今後ともご支援の程よろしくお願い致します。

コロナ禍における医学部早期体験実習

科目責任者　早稲田　勝久

科目コーディネーター　川原　千香子

医学部１学年次の早期体験実習は，1a：シミュレーション実習，1b：看護体験実習，1c：臨床科体験実習の三つで組み立てられています。1cは，大学病院の診療科実習と学外のクリニックや病院において，医師のシャドウィングを実施しています。今年度は，COVID-19の影響で学外実習は断念せざるを得ませんでした。そこで，従来の学内実習に加え，DVD視聴とDVD内容を基にした討議や，学外の数名の先生方にZoomでインタビューし，討議するという形をとり，医師の役割を知り，目指す医師像を考える機会を持ちました。

本実習も回数を重ねる毎に，学生が早期に臨床現場を体験する意義を教員と共有できるようになってきました。最近は，専攻医・研修医など若手医師が１学年次生の対応をしていただく機会も増え，学生は身近な先輩医師を通して臨床の一場面を体験できることが良い経験となっています。学外実習の代替実習となったZoomインタビューでは，地域に密着した医療や大学病院との違いなどについて学生から質問し，先生方の様々な考えを聞くことに加え，医学生としてどのように学生時代を過ごしてほしいか等，熱いメッセージを受け取ることができました。また，今回，実習受け入れ準備をしていただいた先生方に対して，実習に行くことができずに残念だった学生の気持ちを手紙にしたため，送らせていただきました。丁寧な返信をいただいた先生方には，この場をお借りして御礼申し上げます。今後とも，良医の育成のための取り組みにご協力賜りますよう，お願い申し上げます。

Zoomインタビューにご協力いただいた先生方は以下の卒業生です。

池内克彦先生（滝川いきいきクリニック・５期生）
青山貴彦先生（中央病院・９期生）
垣花将史先生（山手クリニック・13期生）
小林博文先生（小林産婦人科・16期生）
大竹一生先生（大竹ニコニコクリニック・19期生）
北川　渡先生（北川内科・20期生）
鈴木宏光先生（鈴木眼科クリニック名東・20期生）
福澤加奈子先生（福澤内科·皮膚科クリニック·20期生）
浅井健次先生（瀬戸みどりのまち病院・21期生）
高阪　崇先生（高阪内科・22期生）

令和３年度看護学部防災訓練実施

令和３年10月21日（木）に看護学部防災訓練が実施されました。（１学年次生：対面＋遠隔，２学年次生：対面，４学年次生：遠隔）

訓練の概要は，①学修進度を踏まえた学年次ごとの訓練，②看護学部の事務室に本部機能設置，③減災に繋がるアンケート調査，④学生が考える防災川柳コンテスト・我が家の減災コンテスト，⑤学内の備蓄品の紹介等でした。

各学年次の訓練内容は，１学年次生は大規模災害による被災状況を視聴し通学中の被災を想定したシミュレーション訓練，２学年次生は事例を用いた一次トリアージ・応急手当訓練，４学年次生は避難所支援活動の講話や帰宅困難となった学生が学内で過ごす場所や方法の検討等を行いました。

全ての学年次で学生達は積極的に取り組み，柔軟な発想で検討を重ね，多様な学びや自身の課題を見出し，個人ごとに，また，学部として取り組むべき課題として提案を行いました。今回の防災訓練によって明らかとなった課題に，今後具体的に取り組んでいく予定です。

シミュレーション訓練に取り組む１学年次生

トリアージ・応急手当訓練に取り組む２学年次生

＜防災川柳コンテスト＞

最優秀学部長賞

・これでよし　我が家の対策　じしんさく
（地震策，自信作）
１学年次　狩野心温さん

優秀学部長賞

・期限切れ　未使用で済み　日々感謝
２学年次　藤林磨耶さん

・我がことと　意識ひとつで　リスク減る
４学年次　磯貝侑希さん

佳作（※川柳のみ紹介）

・守りたい　命のために　話し合い
・いざ災害　わんこも一緒に　避難所へ
・決めたよね　集合場所は　小学校
・非常食　消費週間　年一度
・助け合い思いやり　ひとつの声掛け　助かる命

＜我が家の減災コンテスト＞

最優秀学部長賞

・家具のL字固定
タンスが倒れないように固定している。
１学年次　田村悠衣さん

優秀学部長賞

・学内への備蓄
学校から遠いところに住んでいるため，学校にいるときに災害が起きても三日三晩過ごすことができるよう，一番近い医心館のロッカーに非常食や飲料水，アルミブランケットを準備している。
４学年次　大東志帆さん

・家具の固定
食器棚が地震の際に倒れることがないよう，天井との間に突っ張り棒をつけて耐震している。
４学年次　丸山里南さん

看護学部就職支援講座２開催

令和３年10月11日（月）午前10時から，３学年次生を対象に「就職支援講座２」が開催されました。

本講座は，６月22日（火）に開催の就職支援講座に続く第２回目となる講座であり，今回は，履歴書の書き方や志望動機の考え方などを身に付けることを目的に開催されました。

始めに，佐々木裕子学生委員会委員長が「今までの演習・実習を通して自分がどのような分野に強みや関心があるのかを明らかにし，また，自分自身の魅力，想いについて客観視していけるよう積極的かつ主体的に参加して欲しい。」と述べられ，次いで，外部講師から，履歴書の役割や基本項目の書き方，自己PRと志望動機の考え方などについてお話しいただきました。

最後に，学生各自が自己分析を行った後，グループに分かれて「自己分析の発表等」を行い，特徴や強みをお互いに確認し，今回の講座は終了しました。

実施後に行ったアンケートでは，「ワークシートが自己分析と他己分析にとても役だった。」，「ブレイクアウトセッションでは，人から見える長所を知ることで自己理解が深まるとともに，自己肯定感が高まった。」などの意見が寄せられました。

令和３年度第１回愛・ながくて夢ネット研修会開催

令和３年８月25日（水）に，長久手市医療・介護・福祉ネットワーク運営分科会（多職種連携・推進交流部会）と共催のもと，看護学部老年看護学の横山剛志講師による「令和３年度第１回愛・ながくて夢ネット研修会」が，オンラインにて開催されました。

横山講師からは「意外と知らなかった高齢者の夜間頻尿の原因とケア」と題した講演が行われ，高齢者の夜間頻尿をテーマに，原因とケアに基礎的な知識の説明と，生活指導も含めた行動療法（骨盤底筋訓練等）などの具体例についての紹介がありました。

研修会には，長久手市を始め県内から87名の医療，福祉に関わる専門職の方に加え，地域包括支援センター職員の方々に参加していただき，参加者からは，「高齢者から夜間頻尿を相談された時の答え方が分かって良かった。」，「利用者によく相談を受けるので，行動療法・運動は実際に助言していきたい。」などの感想がありました。

今後も，看護実践研究センターでは，長久手市の医療・介護・福祉職の皆さまと連携し地域住民の皆さまのニーズに即した研修会を企画していく予定です。

看護学研究科特別講義開催

令和３年10月２日（土）午後１時30分から，慶應義塾大学総合政策学部の島津明人教授【写真】をお招きし，「ワーク・エンゲイジメントで健康的な職場づくり」というテーマで，オンラインによる大学院看護学研究科の特別講義が開催されました。講義には幅広い地域の方から参加があり，関心の高さが伺えました。

ワーク・エンゲイジメントとは，働く人たちのこころの健康の新しい考え方で，仕事から活力を得ていきいきとしている状態を指します。今回の講義では，ワーク・エンゲイジメントと生活習慣，健康との関連，個人や組織でワーク・エンゲイジメントを向上させる取り組みなどが紹介されました。更に，お互いの仕事を認め尊重しあう職場づくりとして，CREW（Civility，Respect，& Engagement in the Workplace）プログラムとその効果やジョブ・クラフティング研修の効果，就業以外のリカバリーや気晴らし，ワーク・ライフ・バランスに注目した対策などを学ばせていただきました。

参加者からは，「自分の状態をアセスメントしながら聞くことができ，その上で，自分自身の職場での役割を考えることができた。」，「働きがいのある職場づくりをすることがとても大切であると再認識した。」等の感想が多く寄せられました。

今回の特別講義を活かし，健康でいきいきと働くためのポジティブ・メンタルヘルスの職場づくりが推進されることを期待致します。

看護実践研究センター　キャリア支援部門 臨床倫理セミナー開催

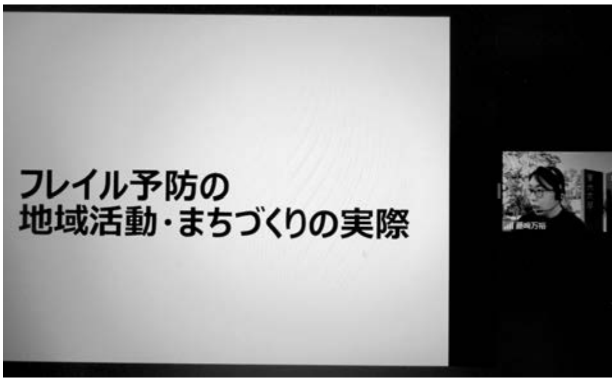
看護実践研究センターキャリア支援部門では，令和３年９月４日（土）に，臨床倫理セミナー「臨床倫理セミナー：日常にありふれた看護ケアを通して倫理を学ぼう」をオンラインで開催致しました。

本セミナーでは，佐久大学看護学部基礎看護学の八尋道子教授【写真】をお招きし，看護ケアを倫理的視点で実践するために必要な知識として，ケアの倫理とは何か，トロント（Tronto）によるケアの倫理，ケアの要素を取り入れた４ステップス事例検討用紙を用いたケーススタディなどの内容について講義いただきました。

本セミナーには，病院や訪問看護ステーションから41名の方が参加されました。講義終了後はたくさんの質問が寄せられ，本セミナーに対する受講生の関心の高さが伺えました。また，受講後のアンケート結果からもセミナーの満足度は高く「とても分かりやすく心に残る内容であった。」，「ケアの倫理という概念を知ることができた。」，「４分割法での取り組みしか行ったことがなかったので勉強になった。」，「臨床で活用できる内容であり，スタッフ指導に活用したい。」などの感想が寄せられ，学びの大きいセミナーとなりました。

看護実践研究センター　キャリア支援部門
地域保健活動セミナー開催

看護実践研究センターキャリア支援部門では，令和３年10月30日（土）に，地域保健活動セミナー「地域活動や看護に活かそう！フレイル予防の基礎知識とまちづくり」をオンラインで開催致しました。



本セミナーでは，東北大学大学院公衆衛生看護学分野の藤﨑万裕講師【写真】をお招きし，フレイルの概念と予防，更にはフレイル予防の地域活動やまちづくりの実際について講義いただきました。超高齢社会である日本において，高齢者の健康と生活の質を高める「健康寿命」延伸のため，高齢者の虚弱を予防し，豊かなエイジングを支えていくことは看護職の重要な役割となります。千葉県柏市でのフレイル予防戦略や，学官民のコラボレーションなどの具体的な内容を紹介いただいたことで，今後地域で，病院で，何から取り組み始めればよいかの示唆を得られるセミナーとなりました。

本セミナーには，行政や地域包括支援センター及び病院から36名の方が参加されました。講義終了後にはたくさんの質問が寄せられ，本セミナーに対する受講生の関心の高さが伺えました。また，受講後のアンケート結果からもセミナーの満足度は高く，「自分の住む地域の特性をふまえて柏市のような取り組みができるかについて今後検討していきたいと思った。」，「フレイル予防の取り組みへの企画意欲が湧きました。」などの感想が寄せられました。

新たに疼痛緩和外科設置・いたみセンターに改称

本院に令和３年10月１日付で「疼痛緩和外科」が診療科として組織され，「痛みセンター」は「いたみセンター」と名称が変更されました。

本学では，平成14年に本邦で初となる集学的な痛みセンターとして医学部附属学際的痛みセンターが設置されました。それと同時にその診療組織として本院に痛みセンターが設置され，多職種による横断的な慢性疼痛医療に従事してきました。

疼痛緩和外科は，これまで痛みセンターで培われた慢性疼痛医療に必要な知識及び技能を持つ医師を診療科として組織することで，特色ある治療及び教育研究を更に発展させるとともに，今後の慢性疼痛医療を担う次世代の専門家を育成することで，本邦に冠たる慢性疼痛医療施設として発展させるものと期待されております。

また，名称を変更した「いたみセンター」についても引き続き中央診療部の開かれた集学的な痛みユニットとして看護師・理学療法士・公認心理師などの多職種により運営し，疼痛緩和外科の医師を始め多くの診療科の医師とともに集学的な慢性疼痛診療を推進していきます。

病院機能評価（一般病院３）受審における訪問審査の実施

愛知医科大学病院では，公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院３）を受審し，令和３年９月28日（火）から30日（木）の３日間にわたり，訪問審査が行われました。

本院では，平成17年から同機構の定める認定基準を達成しており，今回は４回目の認定審査となります。新設された「一般病院３」という高いレベルの審査水準カテゴリーで審査が行われ，12月には審査の中間報告がありますが，本院では中間報告を待たずに見えてきた課題の改善に取り組みだしています。

各部門での改善・改革を進めると同時に，縦横断的な委員会も立ち上げを検討しており，今後ますます患者さんの視点に立った病院運営を行いこの改善・改革を継続して実践し，患者さんに選ばれる病院を目指していきます。

薬剤部にて安全管理の確認

病院長によるプレゼンテーション

講評を聞く本学職員

病院経営人材育成研修会の開催

令和３年10月14日（木）大学本館たちばなホールにおいて，医療経営学修士（MBA）資格を持つ肝胆膵内科の角田圭雄准教授(特任)を講師に迎え,「医療者と患者コミュニケーションをMBA的に考察する～行動経済学，交渉学の観点から～」というテーマで病院経営人材育成研修会が開催されました。

この研修会は，医療法施行規則の改正により特定機能病院の開設者に求められることとなった「病院のマネジメントを担う人員の育成」を目的として，病院職員各職種の管理職を対象に平成30年から開催しており，今回で３回目（昨年度は，新型コロナウイルス感染症の影響により中止）となります。

角田准教授（特任）には，日々，身近なところで起こりうる状況を例に用いながら，患者の潜在ニーズを引き出すコミュニケーション（Win-Winの交渉学）や，リバタリアン・パターナリズムによる患者の意思決定支援の重要性などについて大変分かりやすくお話しいただきました。

今回は62名の出席があり,受講後アンケートでは,「行動経済学や人材育成，メンタルヘルスケアについて詳しく知りたくなった。」などの意見がありました。これらの意見については，次回以降の研修会に取り入れるよう検討して参ります。

生理学講座　池上 啓介講師
公益財団法人宇部興産学術振興財団第61回学術奨励賞受賞

生理学講座の池上啓介講師【写真】が，公益財団法人宇部興産学術振興財団の第61回（2020年度）学術奨励賞を受賞しました。なお，令和３年６月16日（水）に山口県宇部市にて贈呈式が予定されていましたが，新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となりました。

今回の受賞は，幅広い自然科学分野の優れた独創的研究を行い，かつ研究費が不足している者に対して援助金を贈呈している同財団において，池上講師の研究題目「眼圧概日リズムを制御する分子機構の解明」が医学の発展に大きく貢献することを期待できるものとして評価されたものです。

受賞された池上講師からは，「この度は名誉ある賞をいただき，大変光栄に存じます。これも，自由に研究ができる環境を提供していただいた本学及び皆さまのご協力，ご指導のおかげと感謝しております。今後も，なお一層科学・医学の前進に向けて精進していく所存でございます。」との感想がありました。

生理学講座　小松 紘司講師
日本繁殖生物学会The JRD Outstanding Paper Award in 2020受賞

生理学講座の小松紘司講師【写真】が，令和３年９月21日（火）から24日（金）にわたり，オンラインにて開催された第114回日本繁殖生物学会大会において，The JRD Outstanding Paper Award in 2020を受賞しました。

これは，2020年にJournal of Reproduction and Developmentに掲載された論文の中から，編集委員の投票によって特に優れているとされたものに授与される賞です。

受賞された小松講師からは，「この度は名誉ある賞をいただき，大変光栄に存じます。今回の研究成果を更に発展させ，新しい不妊治療法や不妊予防法の確立につながる研究成果をあげられるように努めていきたいと思います。」との感想がありました。

感染・免疫学講座　髙村 祥子教授　第16回 国際エンドトキシン・自然免疫学会 Theresa L. Gioannini Women in Science Award受賞

感染・免疫学講座の髙村祥子教授【写真】が，令和３年10月12日（火）から15日（金）の４日間にわたり，神戸国際会議場及びオンラインによるハイブリッド方式にて開催された第16回国際エンドトキシン・自然免疫学会において，「Theresa L. Gioannini Women in Science Award」を受賞しました。

この賞は，本来は平成26年に64才で亡くなった女性研究者・Theresa L. Gioanniniを追悼するトラベルアワードとして，２年ごとに開催される国際エンドトキシン・自然免疫学会で若手研究者に授与されていた賞ですが，今回はハイブリッド学会のため対象者が国際エンドトキシン・自然免疫学会における功労者に変更となりました。

髙村教授は，LPS（エンドトキシン）受容体構成分子MD-2の発見や，TLR4/MD-2複合体を介するLPS認識機構の解明に携わり，TLR4モノクローナル抗体を用いたエンドトキシンショックの制御やTLR4会合分子による制御機構を明らかにするなど，エンドトキシン・自然免疫研究に関わる長年の功績が認められ，今回の受賞に至ったものであり，令和３年10月13日（水）に受賞講演（English Presentation）を行いました。

受賞された髙村教授からは，「これまでたくさんの先生方や共同研究者，大学や講座の方々等多くの皆さまのご指導やご協力のおかげで，研究を続けることができました。本当にありがとうございました。この賞を励みになお一層精進して参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。」との感想がありました。

感染・免疫学講座　山崎 達也講師
第26回日本エンドトキシン・自然免疫研究会　奨励賞受賞

感染・免疫学講座の山崎達也講師【写真】が，令和３年10月12日（火）から15日（金）の４日間にわたり，神戸国際会議場及びオンラインによるハイブリッド方式にて開催された第26回日本エンドトキシン・自然免疫研究会（第16回国際エンドトキシン・自然免疫学会内プログラムとして共同開催）において，「奨励賞（最優秀賞）」を受賞しました。

この賞は，エンドトキシン研究に関する学術及び技術の進歩に貢献したと評価される研究業績に対して授与される賞であり，候補者は，原則50歳未満で３年以上の会員歴を有する者で，会員１名の推薦（他薦）又は本人の申請（自薦）が必要となります。

山崎講師は，中和抗体を発現する「抗体遺伝子」を投与するという新しい受動免疫法によって，インフルエンザを予防・治療できることを，マウスモデルを用いて世界で初めて証明したこと，また，自然免疫受容体に対するアゴニスト抗体を発現する抗体遺伝子を，ウイルス抗原遺伝子と同時にマウスに投与することで，DNA免疫のアジュバントに応用することにも成功されました。更に，これらの研究において偶然にも，インフルエンザ研究でよく使用されるコレラ菌由来の酵素に，IgEの不活化作用があることを見出され，これら一連の研究成果をまとめた論文が評価され，受賞に至ったものです。

受賞された講師からは，「『抗体遺伝子を用いた感染症防御への挑戦』という研究内容で受賞致しました。これまでご協力いただいた皆さまのおかげで研究成果を上げることができ，このような賞を受賞することができました。引き続き研究に精進し，社会に貢献できるような成果を目指します。」との感想がありました。

看護部　川谷 陽子看護師長
愛知県看護協会長表彰受賞

看護部の川谷陽子看護師長【写真】が，愛知県看護協会長表彰を受賞しました。

これは，愛知県看護協会会員として多年にわたり看護業務に精励されるとともに，協会活動に大きく貢献された功績が評価されたものであり，令和３年６月24日（木）愛知県看護協会において開催された愛知県看護協会通常総会にて表彰式が行われました。

表彰を受けた川谷看護師長からは，「看護師の皆さまの支え，ご支援があったからこその表彰だと思います。この表彰に恥じぬよう，一看護師として，また，看護管理者として看護の発展と地域・病院のために努力していきたいと思っております。」との感想がありました。

看護部　江上 直美看護師長
愛知県看護功労者表彰受賞

看護部の江上直美看護師長【写真】が，愛知県看護功労者表彰を受賞しました。

これは，看護職員として長年業務に従事し，顕著な功績のあった者に授与される賞であり，令和３年10月26日（火）愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において開催された令和３年度愛知県看護大会の席上で，表彰式が行われました。

表彰を受けた江上看護師長から「この度は名誉ある賞をいただき，大変光栄に存じます。私は初代の日本看護協会認定看護師となって以降24年間，本院で皮膚・排泄ケア業務に従事してきました。看護師長となってからも，常に臨床現場の目線での患者ケア，チーム医療，院内外の看護専門教育に力を注いで参りました。ここまで継続できたことは，看護部の皆さまのご協力・ご指導の賜物だと深く感謝しております。今後は，若い世代に引き継いでいただけるように精進していく所存です。本当にありがとうございました。」との感想がありました。

優良自動車運転者表彰

毎年，模範的な運転を行い，交通の安全確保に貢献している方に対し，愛知警察署，交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から「優良自動車運転者表彰」が行われています。

今年は，令和３年10月１日付で，自動車運転手の近藤英紀主任【写真】が表彰を受けました。この表彰は，運転を職務とし，安全運転を心掛け，長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

近藤英紀主任からは，「今後も模範となる安全運転を続けていきます。」と感想がありました。

学　術　振　興

学　位　授　与

◆大学院医学研究科

友杉　俊英
学位授与番号　甲第607号
学位授与年月日　令和３年９月９日
論文題目：「Clinical Significance of Shared T Cell Epitope Analysis in Early *De Novo* Donor-Specific Anti-HLA Antibody Production After Kidney Transplantation and Comparison With Shared B cell Epitope Analysis（腎臓移植後の早期de novoドナー特異的抗HLA抗体産生における共有T細胞エピトープ分析の臨床的意義と共有B細胞エピトープ分析との比較）」

浅井　昭雅
学位授与番号　甲第608号
学位授与年月日　令和３年９月30日
論文題目：「Roles of glomerular endothelial hyaluronan in the development of proteinuria（蛋白尿発現における糸球体内皮ヒアルロン酸の役割）」

◆大学院看護学研究科

山崎　富善
学位授与番号　第145号
学位授与年月日　令和３年９月24日
論文題目：「中小規模病院における看護師の外国人患者への関わり」

令和４年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数（件）	申請金額（千円）
新学術領域研究（研究領域提案型）	1	3,000
基盤研究（A）（一般）	1	20,900
基盤研究（B）（一般）	13	99,812
基盤研究（C）（一般）	124	214,252
挑戦的研究（開拓）	1	7,600
挑戦的研究（萌芽）	11	22,205
若手研究	49	72,077
学術変革領域研究（B）	1	21,000
合　　計	201	460,846

※令和４年度分の申請金額（令和３年10月31日時点）

研究助成等採択者

◇公益財団法人日東学術振興財団　研究助成

・氏　　名　都築忍（生化学講座・教授（特任））
研究題目　転写因子コア・サーキットから見た，難治性急性白血病の成立・維持機構の解明と新規治療法の開発
助成金額　1,000,000円

・氏　　名　福重香（解剖学講座・助教）
研究題目　肺深部への効率的な核酸デリバリーを可能にするヒアルロン酸含有マイクロ粒子製剤のCOPD治療への応用による核酸吸入剤の確立
助成金額　1,000,000円

・氏　　名　伊藤秀明（病理学講座・講師）
研究題目　病理切片における膵臓癌浸潤シグナル可視化技術の開発と膵臓癌病理診断への応用
助成金額　1,000,000円

◇公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団　調査研究助成

・氏　　名　桑原義彦（客員教授）
研究題目　マイクロ波ホログラフィを用いた定量的画像骨密度診断
助成金額　1,000,000円

◇公益財団法人中部科学技術センター
学術・みらい助成（中部科学技術センター学術奨励研究助成事業）

・氏　　名　名仁澤英里（解剖学講座・助教）
研究題目　網羅的代謝物解析を用いた非アルコール性脂肪性肝炎の予防法の確立
助成金額　600,000円

◇公益財団法人愛知腎臓財団　研究助成金

・氏　　名　孫汀（腎臓・リウマチ膠原病内科・助教（専修医））
研究題目　Effect of interleukin-6 blockade on salt-induced cardiac inflammation and fibrosis in uremic mice
助成金額　200,000円

・氏　　名　久能木俊之介（研究員）
研究題目　腹膜障害，線維化に対するトランスグルタミナーゼをターゲットとした新規治療戦略の確立
助成金額　200,000円

令和３年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）交付決定

令和３年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）が採択され，次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研　究　課　題
研究活動スタート支援（基　金）	馮　国　剛 医　学　部 麻酔科，助教	1,200	360	Regulation of inflammatory response by antonomic nervous system in macrophages
〃	松　尾　友　仁 医　学　部 法医学講座，助教	1,000	300	新規前処理法を用いた尿中薬毒物LC-MS/MS分析法開発
〃	深　谷　基　裕 看　護　学　部 准　教　授	1,200	360	臨床倫理コンサルテーションで初動者が必要とするスキルの明確化に関する研究

・令和３年10月31日時点の情報を掲載

・課題番号順にて記載

・氏名は，e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載

・「交付決定通知」を基に作成

・今年度請求額を記載

令和３年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究開発契約の締結

令和３年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され，次のとおり研究契約を締結しました。

（金額単位：円）

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
医療機器等における先進的研究開発・開発体制強靭化事業	天　野　哲　也 医　学　部 内科学講座（循環器内科），教授	12,936,536	経皮的冠動脈形成術後の重症化予防を目的とする遠隔行動変容支援と外来診療との効果的連携に関する研究開発

・令和３年８月１日から10月末日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載（変更契約を含む）

・委託研究開発費は，他機関への再委託費及び間接経費を含む

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第17回加齢皮膚医学研究会	令和３年８月21日(土)・22日(日)	渡邉　大輔
・第30回愛知眼科フォーラム	令和３年９月５日(日)	瓶井　資弘
・第36回日本環境感染学会総会・学術集会	令和３年９月19日(日)・20日(祝・月)	三鴨　廣繁
・第54回日本てんかん学会	令和３年９月23日(祝・木)～25日(土)	兼本　浩祐
・第83回日本心身医学会中部地方会	令和３年10月16日(土)	堀　　礼子

第17回加齢皮膚医学研究会

皮膚科学講座・教授　渡邉　大輔

令和３年８月21日（土）及び22日（日），名古屋市東区imyホールにおいて，第17回加齢皮膚医学研究会が本学皮膚科学講座教授の渡邉大輔が当番世話人で開催されました。

本研究会は基礎医学，皮膚科学，香粧品学などの幅広いバックグラウンドを持つ会員によって構成され，自由闊達な研究交流を行うことを主旨としており，年１回開催されております。

今大会はコロナ禍中ということもありハイブリッド形式で行われましたが，参加者は現地，Web合わせ総勢77名で，東北地方から沖縄県まで，全国から参加者が集まりました。特別講演では，国立感染症研究所の長谷川秀樹先生に「新型コロナワクチンの開発」を，また，加齢皮膚医学講座として日本福祉大学の西村直記先生に「発熱障害を伴うパラアスリートの暑熱対策」を，そして，群馬大学の茂木精一郎先生に「早漏症の臨床と病態について」を発表していただきました。いずれの講演も非常に内容の濃いものであり，参加者からも好評を得ることができました。またロート賞授賞式，５題のスポンサードセミナー，19題の一般演題では，闊達な質疑とともに発表が行われ，感染対策を施した上，成功裏のうちに大会を終えることができました。

最後に，本研究会の開催にご支援とご協力をいただいた本学関係者の皆さまに心より御礼を申し上げます。

第30回愛知眼科フォーラム

眼科学講座・教授　瓶井　資弘

愛知眼科フォーラムは，本学眼科学講座が主催し，一般眼科医，視能訓練士に公開している眼科全般の学会です。毎年１回開催しており，本年度は令和３年９月５日（日）興和株式会社本社ビル（名古屋市中区栄）において第30回大会を開催しました。緊急事態宣言下の開催となったこともあり，充分な感染対策を講じた上で現地での対面開催とWebでのライブ配信を複合したハイブリッドによる開催となりました。

特別講演は，山本修一先生（独立行政法人地域医療機能推進機構理事・千葉大学医学部附属病院臨床試験部特任教授），加登本伸先生（京都大学大学院医学研究科）の２名をお招きして，それぞれ「網膜色素変性，諦めない！」と「イメージング最前線！OCT angiographyと補償光学走査型光検眼鏡（AOSLO）でみえた網膜微小循環」と題した講演が行われました。また，本学眼科学講座と関連病院から18題の一般演題の発表があり，いずれも高度な眼科医療，高い水準の研究を示すもので，活発な質疑応答が行われ，盛会のうちに終了することができました。

最後に，本学会を開催するに際しまして，ご協力頂きました本学関係者の皆さまに心より御礼を申し上げます。

第36回日本環境感染学会総会・学術集会

感染症科・教授　三鴨　廣繁

第36回日本環境感染学会総会・学術集会の会長を愛知医科大学病院感染症科の三鴨廣繁が拝命し，副会長には山陽学園大学看護学部教授の渡邉都貴子先生，総務委員長には本院の前看護部副部長であり現医療法人三九会三九朗病院感染防止対策室の加藤由紀子先生，実務委員長には本院の感染症科前教授（特任）であり現高知大学医学部附属病院感染症科教授の山岸由佳先生，副実務委員長には本院の村松有紀看護師長，事務局として本院感染症科臨床技術員の小島良さんの布陣で，令和３年９月19日（日）・20日（祝・月）の２日間にわたり，名古屋国際会議場にて開催しました。【写真】

本学術集会が名古屋市で開催されるのは，平成11年に品川長夫先生が第14回総会・学術集会を開催されて以来22年ぶりでした。本来は，令和３年２月に開催予定であった学会をコロナ禍のため９月に延期したものの，タイミングが悪く緊急事態宣言中での開催となってしまいました。

学術集会はハイブリッド開催で，令和３年10月１日（金）から１か月間のオンデマンド配信での開催となりましたが，感染対策の専門家集団という背景もあり，お陰様で現地参加が1,200名程度，Web参加合わせて4,900名を超えるご参加をいただき，盛会のうちに終了致しました。

今回テーマとして，「一竜一猪」を掲げさせていただきました。「一竜一猪」とは，努力して学ぶ人と，怠けて学ばない人との間には大きな賢愚の差ができるということです。コロナ禍の中でも，コロナ感染対策を始めとして多くの研究発表と活発な討論が行われたと確信しております。学術集会にご参加いただきました皆さま，ご協力いただきました関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。また，学会運営に当たっては，一般財団法人愛知医科大学愛恵会からもご援助いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第54回日本てんかん学会

精神科学講座・教授　兼本　浩祐

本学精神科学講座主催の第54回日本てんかん学会が，令和３年９月23日（祝・木）から25日（土）まで，名古屋国際センターにおいて開催されました。COVID-19がどのように落ち着くかが分からない中での学会となり，ハイブリッド開催を含め，従来と随分違った形の学会になりましたが，1,600名以上の学会員が参加する学会となり，何とか赤字を出さないように終了することができました。いかなる状況であっても，可能な限り学術集会を何らかの形で継続していくことも，先人が積み上げてきたものを

絶やさないという点で一番大きな成果であったかと思います。ハイブリッド開催というのは経済的側面だけからみると，今回に関しては完全なレアルでの開催，完全なWeb開催のいずれよりも経済的な負担は大きなものとなりましたが，少しでもレアルな学会に近いものをと考えた上での苦肉の策でした。

今回の学会のテーマは，「多様と凝集」と致しました。これは，私のてんかん診療の原点である宇多野病院のてんかん病棟での体験に由来するものです。そこでは，やむを得ない事情からでもあったのですが，年齢は乳幼児から80歳までの老若男女，小学生から大学教授まで，あらゆる階層の方が集い，少なくともてんかんに起因する様々の出来事については，驚くほど寛容で，これ以上ないほど多様でありながら，おそらくは病棟の創立者であった故河合逸雄先生のお人柄もあって，一つの濃密な共同体として機能していることが深く印象に残っています。今回はICTを用い，海外からの参加者も20名近くあって，基調講演を英国のMichael Trimble教授にお願いし，更にドストエフスキーの翻訳で有名な亀山郁夫先生にも特別講演をお願いし，特色ある学会となったと思います。

てんかんにおいては約３割の相対的難治例があり，この群は残りの７割と比較して医療資源のヘビー・ユーザーとなるため，数よりも大きなインパクトを持っていると思われます。この群においては精神症状が多く出現するだけでなく，社会資源の活用，臨床心理士・作業療法士・PSWなど多職種の連携が必要とされ，精神科において長年培われてきた思考法が特に必要とされる領域であると思われます。地味ではあるけれども，てんかんをもって生きるということを考えたときに，欠くことができないこうした領域のことをもう一度思い出しておく学会となれば嬉しいと思います。

第83回日本心身医学会中部地方会

衛生学講座・シニア講師　堀　礼子

令和３年10月16日（土）午後に，ナディアパーク・デザインセンタービル６階セミナールーム３（名古屋市中区栄）において，本学衛生学講座主催により第83回日本心身医学会中部地方会を開催しました。第82回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために対面開催から紙面開催に変更を余儀なくされましたが，今回はこれまでの春季開催を秋季開催に変更し，完全対面開催を目指しました。しかし，パンデミックは終息せず，ハイブリッド形式（原則，演者・座長のみ来場，参加者はZoomによるオンライン配信）にて開催しました。

特別講演では，加茂登志子先生により，「親子相互交流療法」についての解説，日本PCIT研修センターにおける研修，研究，教育，普及の取り組みを講演していただきました。

また，一般演題として15題の発表がありました。精神疾患患者の嗅覚と症状との関連，看取り症例に対する取り組み，総合診療科での東洋医学的アプローチ，認知症サポーター養成講座の取り組み，新型コロナウイルスパンデミックの臨床的意義，近世養生法とリラクセーション法の関連，不眠症に対する認知行動療法の治療効果，慢性便秘や便秘型過敏性腸症候群，雷恐怖の症例報告，抑うつ度と血中指標，高齢者に対する加圧トレーニングの歩行機能への影響，家庭用プラネタリウム鑑賞による気分・生理機能への影響など発表内容は多岐にわたり，質疑応答も活発に行われました。内科や精神科の臨床系医師，社会医学系の医師，臨床心理士，心理系研究者など様々な分野の会員による参加者が，発表・講演を通して議論し，交流を深めることができました。オンライン形式での開催は新しい試みではありましたが，中部地方会会員のみでなく，全国各地から様々な職種の方が参加され，65名の参加者を得ることができました。

本会の開催に当たり，一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただき，この場を借りて厚く御礼申し上げます。

「教育・研究最前線」

やるじゃん！愛知医大

脳神経外科学講座・教授　宮地　　茂

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

国試において脳神経外科に関する問題はごく僅かです。しかし，臨床に出れば意識障害も含めて脳に起因する重症救急疾患は山ほど経験することになります。医学生の段階では，まず脳に興味を持ってもらい，現場における重要性を認識してもらうとともに，脳外科医の「仕事」の一部を実体験して身近に感じてもらうことを主眼にしています。

初期研修医になってからは，きちんとした神経救急患者の診断と初期管理ができるように指導します。一方，手術については，専攻医前期のうちからどんどん手術に入ってもらい，簡単な手術は執刀してもらいます。専攻医後期からは，専門医取得を目指してギアを上げます。

本学脳神経外科においては通常の開頭手術はもちろん，現在脳神経外科治療法の大きな柱となっている脳血管内治療，鏡視下（内・外視鏡）手術，脊椎・脊髄手術について，国内外で認められたエキスパートが揃っており，手術数も年に800件近くあり，全国の大学でもトップクラスの治療実績をもっております。これらのサブスペシャルティーのグループをローテーションしてもらい，難易度が高く，かつ，豊富な治療経験の中から，より高いレベルの知識，技術の習得ができることを目指しております。更に，生死に関わる重大な局面を経験する中で，患者に寄り添う医師としてのヒューマニティも学んでもらいます。また，専攻医期間中に必ず１本は論文をまとめ，学位も全員取得してもらいます。多忙な中でも充実感を持ってもらえるような系統的な指導体制で，今後も日々精進して参ります。

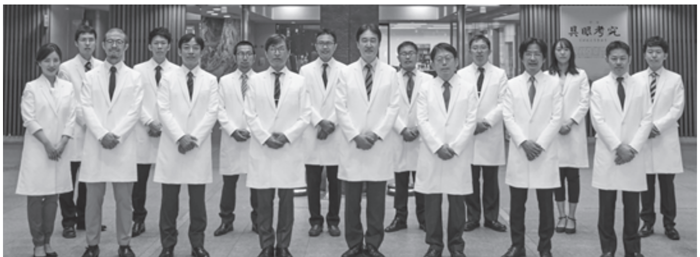
【世界に発信する医学研究】

臨床研究としては，各グループともに多くの新デバイス，新薬の多施設共同治験に参加しており，今年からは国際治験にも参画致します。脳血管内治療においては，新しい診断法や病態の解明，治療技術やトレーニング法の開発，脳血管内治療ロボットの開発などについて，次々と論文にて発信しております。鏡視下手術については，本学脳神経外科では全国に先駆けて導入し,「水中手術」と言う斬新な治療法を開発し，学会，論文発表を致しました。これらの治療のノウハウについては，テキストとしてまとめ，近日発刊予定です。また，一部は海外の英文テキストにも寄稿しております。脊髄領域では，伝統的な研究として手術適応決定に必要な画像評価の研究を続けています。一方，基礎研究として，脳外科疾患，特に，慢性硬膜下血腫とクモ膜下出血の髄液におけるシグナル伝達系に関する研究を行っています。病態の進展，治療効果などに大きく影響する因子として注目され，国内外から高い評価を受けています。これらは専攻医にとって重要な学位論文のテーマとなっております。また，本学脳神経外科では毎年各グループが全国学会を主催する予定となっており，これらを世界に向けた最新研究発表の場として企画，発信していくつもりです。

【部署からの一言】

専攻医としての研修期間の過ごし方が，医師としての将来を決定すると言っても過言ではありません。この期間に，いかに質の高い教育を受け，また，自身でどれだけの数を経験するのかで差が出ます。今年の我々のモットーは，「やるじゃん！愛知医大」であります。中小企業のような地方大学と舐められない程の実力を見せるために，チーム一丸となって腕を磨き，金の卵である後進の指導をしています。

今の最大の悩みは，教室員の少なさです。一緒に歩んでくれる，やる気溢れる若手を募集しています。何卒よろしくお願い致します。（脳神経外科のHPを新設しました。我々の取り組みの詳細については，https://aichi-med-ns.jpをご覧ください。）



集合写真

脳神経外科キッザニア（ハンズオン体験実習）
（３・４年選択科目）

患者を視て，病気を看て，患者を診る

整形外科学講座・教授　出家　正隆

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

整形外科は，スポーツ障害や外傷ばかりのイメージがあると思います。しかし，臨床の現場では違います。もちろん，スポーツや交通事故の外傷など緊急手術も多いのですが，これらは障害予防や技術の進歩で減少させることができるでしょう。一方，加齢による老化は防げません。整形外科では，高齢者の運動能力や生活の質の向上に対する医療を非観血的または手術的に行うことが多い臨床科です。そのため，衰えた運動器を「いかに回復させるか」，または「衰えないようにするか」，それが整形外科の課題であり，再生医療へと繋がっています。整形外科の再生医療では，軟骨再生，神経再生が既に臨床で始まっており，本学では，特に軟骨再生を積極的に行っています。最先端医療に目を向けることで，世界レベルの医学教育を学べるようにしています。その第一歩として，卒前教育では治療に参加することを第一に考えています。手術での手洗い・糸切り・糸結びはもちろん，初期研修医の段階で，実践で使える知識・技術を身に付けるように指導し，現場ですぐ戦力になるように教育を行っています。

【世界に発信する医学研究】

整形外科は，運動器全般を診断治療していきます。特に本学整形外科では，関節外科を中心に研究しています。

従来は「人工関節の開発」や「手術手技の考案」，近年では「関節機能の再生・再建」です。私の専門は膝関節であり，組織の再生とともに，機能としての再建を目指しています。せっかく軟骨や靭帯が再生・再建ができるようになってきても，これらが上手く機能して，関節としてその役目を果たさないと意味がない訳です。痛みがとれても動かない関節は，運動器としては役に立ちません。軟骨再生は臨床でも行われるようになりましたが，現在の教室の研究テーマは，半月再生と変形性関節症の予防です。当教室では，運動機能の再建を目指した手術方法の工夫や開発について，学会報告や論文発表を行っています。

【部署からの一言】

我々の教室では，整形外科は力や体力が必要なところというイメージを一新すべく，ロボティックサージェリーなど最新機器を導入し，女性医師はもちろんですが，非体育会系男性研修医にも働きやすい環境づくりを行っています。教育では，初期研修医の育成に力を入れており，専攻医の段階で自信を持って現場に立てるように指導します。また，日常診療での疑問を研究に繋げて，日々向上できるような体制を持った教室を目指しています。多くの若い先生の研修登録を待っています。

医局員集合写真

カンファレンスの様子

☺Smile ～スマイル～☺
～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では，大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて，各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

細胞治療センター

細胞治療センターは，日本再生医療学会認定医，細胞治療認定管理師，細胞治療に関する専門的知識を有した教員，技師などにより構成されており，D棟９階にある無菌の細胞調整室にて再生医療や免疫療法などに使う細胞を樹立しています。また，それらを用いて，もしくは他施設で調整された細胞を利用して実際の診療も施行しています。

これまで固形ガンに対して患者さん自身のリンパ球を用いた細胞傷害性Tリンパ球療法，患者さんの歯髄（俗に言う歯の神経）を用いた顎骨再生などを実施してきました。現在は，他人の脂肪組織から間葉系幹細胞を作製し，臍帯血移植における生着促進を目的とした世界で最初の臨床研究を，厚生労働省再生医療等審議会の承認を得て血液内科と共同で行なっています。このように，本センターは中部圏における細胞医療の発展に一翼を担ってきたと自負しております。これからも先進的治療の実践と同時に患者さんに有益な治療の提供を目指して努力を続けています。

スタッフの集合写真

幹細胞培養の様子

脳卒中センター

脳卒中センターは，脳梗塞，脳出血を中心とした脳卒中急性期の患者さんを24時間・365日体制で神経内科当番医・当直医が診療を応需し，可及的速やかな病型診断に基づく治療，とりわけｔ－ＰＡ静注，並びに脳神経外科医との協力体制のもと血管内治療による超急性期血栓溶解治療を含む抗血栓療法治療を迅速かつ適切に行っています。また，病棟内に急性期リハビリ室を設置しており，より早期からの重点的急性期リハビリテーションを実現しています。

更に，本院は医療福祉相談部・入退院支援センターの強固な協力のもとで地域医療連携体制の充実にも貢献してきており，回復期リハビリテーション病院，療養型病院，そして在宅医療・介護施設との相互連携協力を積極的に行うことによって超急性期・急性期から回復期リハビリテーション，そして在宅或いは慢性期医療への迅速かつ適正な患者さんの移動を実現し，切れ目の無い地域完結型脳卒中診療を尾張東部医療圏にお住まいの住民の皆さんに提供しています。

スタッフの集合写真

規　　則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

学則の一部改正

愛知医科大学学則の一部が改正され，令和４年度における医学部愛知県地域特別枠の入学定員について，令和３年度に引き続き10名とすることになりました。

施行日は令和４年４月１日

公的研究費の取扱いに関する規程の一部改正等

研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）の改正及び官公庁等からの各種調査に対応するため，以下の関係規則が整備されました。

【一部改正】

・愛知医科大学における公的研究費の取扱いに関する規程

・愛知医科大学における研究活動上の不正行為の取扱いに関する規程

施行日は令和３年９月13日

・公的研究費の適正な運営及び管理に関わる研究用物品の発注及び納品検収業務について（学長裁定）

施行日は令和３年11月１日

病院規程の一部改正等

愛知医科大学病院規程の一部が改正され，病院の診療科として新たに疼痛緩和外科を設置されました。またそれに伴い，中央診療部の「痛みセンター」を「いたみセンター」に，メディカルクリニックの「痛みセンター」を「疼痛緩和外科」に改めるため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和３年10月１日

【一部改正】

・愛知医科大学病院規程

・愛知医科大学病院中央診療部に関する規程

・愛知医科大学病院痛みセンター運営委員会規程

・愛知医科大学医学部附属メディカルクリニック規程

患者さん等からの投書の取扱いについて（病院長裁定）の一部改正

令和３年４月１日付で「患者さん等からの投書の取扱いについて」（病院長裁定）の一部が改正され，患者からの投書に対する手紙の返送手続きが整備されました。

過半数代表者に関する規程の一部改正等

メディカルセンターにおける過半数代表者の選出手続き等を定めるため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和３年９月21日

【一部改正】

・学校法人愛知医科大学過半数代表者に関する規程

・学校法人愛知医科大学過半数代表者選挙細則

メディカルセンター緊急自動車運行管理要綱の制定

愛知医科大学メディカルセンター緊急自動車運行管理要綱が制定され，メディカルセンターで使用する緊急自動車の管理に関し，必要な事項が定められました。

施行日は令和３年４月１日